



「サイドコール、タッチコール活用法！」

離床センサーでよく導入頂いたりお問合せを頂くのは、床敷きタイプのセンサーや起き上がり知らせるベッドコール、様々な活用ができる赤外線コールですが、サイドコールとタッチコールも発売当時から現場では活躍中のセンサーです。今回はそのサイドコール、タッチコールについて特集しましたので、ぜひご参考下さい！

サイドコールとタッチコールはどういうセンサーなの？

サイドコール（ベッドの端に寄ったらお知らせ）



対象者

- * ベッドから降りる前に報知したい人に
- * 床敷きタイプのセンサーを避ける人に（シーツで覆うので患者様の目に触れません）
- * ベッド上の起床行動が多い人に
- * ベッドからの転落が心配な人に

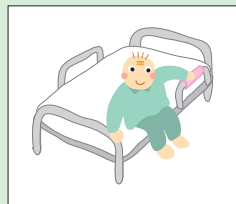
設置ポイント

センサーはベッドの昇降口にセンサー部を上にしてマットにコの字型に巻きこむように設置します。非センサー部以外では作動しませんのでご注意ください。



膨らみがある部分がセンサー部です

タッチコール（ベッド柵を握るとお知らせ）



対象者

- * 離床に繋がる行動を報知したい人に
- * ベッド柵を抜いてしまう人に
- * ベッド柵を乗り越えようとする人に
- * ナースコールを押さない人に

設置ポイント

センサーはベッド柵にまっすぐ伸ばした状態でマジックテープで設置します。強く巻き付けすぎたり、折り曲げて設置（右写真参照）すると頻回報知など誤報知が起こったり、故障の原因になることがありますので、ご注意ください。



● サイドコール、タッチコール活用工夫いろいろ！ ●

利き腕やくせを利用して確実報知！

タッチセンサーは柵を握ると報知しますので、上半身側柵のどちらに取り付けるかは、対象者の利き腕、くせなどから判断して下さい。また、サイドセンサーも対象者がベッドのどちら側から降りやすいかにより、設置位置が決まります。

対象者の情報を元に設置することで、より自然な設置、確実な報知が可能になります！

ベッド両側設置で確実報知！

対象者の情報を元に設置位置を決めたけれど、想定以外の位置から離床することがある…

そんな時は、ベッド両脇のセンサー設置が有効です。分岐ハーネス使用により、複数のセンサー併用が可能になります。また、コードレスタイプの場合、無線中継ボックスへの追加登録で簡単に増設ができます。



ベッド柵で降り口誘導→確実報知！

対象者の情報を元に設置位置を決めたけれど、想定以外の位置から離床することがある…

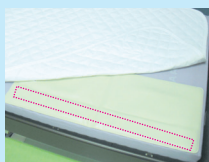
そんな時は、ベッド両脇のセンサー設置も有効ですが、ベッド柵を3点にし、降り口を自然に誘導する方法もあります。



滑り止めが効かない場合の設置方法！

マットレスのカバーがナイロン製で、サイドコールが滑って上手く設置出来ない…

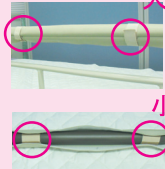
マットレスのカバーの材質によりセンサーの滑り止めが効かない場合は、センサーを広げた状態で設置して下さい。その際、センサー一部がベッド端にくるように設置して下さい。



タッチバンドを活用！

タッチコールが対象者に外されないか心配…
ベッド柵が太くマジックテープでは固定できない…

付属のタッチバンド（大）を使用する事でセンサーを外れにくく補強する事が出来ます。ベッド柵が太くてタッチセンサーがフィットしない場合はタッチバンド（小）を使用する事で幅を補う事が出来ます。



タッチコールをナースコール代わりに！

ナースコール指導をしても中々押してくれない…
指がうまく動かず、ナースコールが押せない…

タッチコールは離床しようと柵を握ると報知しますので、ナースコールを押せない人へのナースコール代わりに使うこともできます。



サイドコール、タッチコールが上手く使えないそんな時に！

ベッドを低床にしていると、端座位の姿勢を取る際に膝が床より上になるためセンサーが太ももにしっかり当たらず、サイドコールの報知が不安定になる…

『赤外線コール』をフットボードに設置することで（右参照）報知が安定し解決！



タッチコールでは長すぎる…
介助バーを握って立ち上がる前に知りたい…

16cmとタッチコールより短い『介助バーコール』があります。対象者が介助バーを握るとお知らせします。

